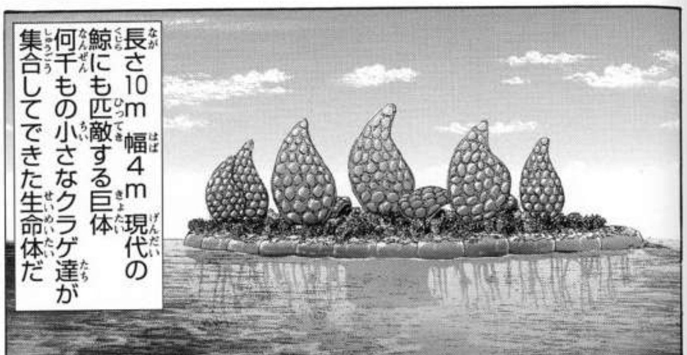
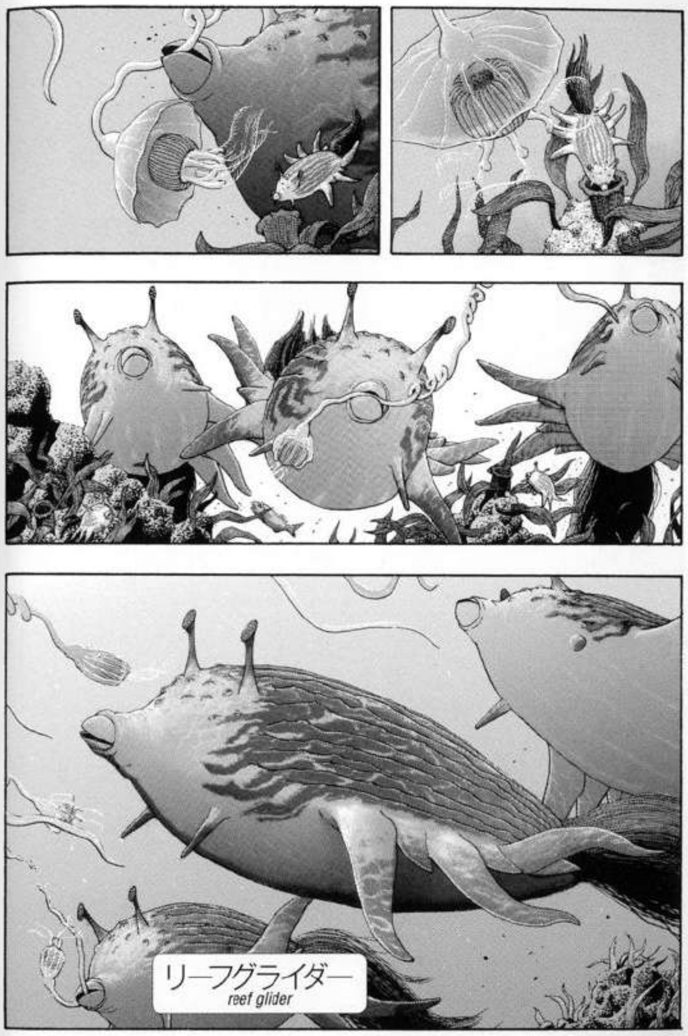
the FUTURE is WILD™

1億年後の世界
いちおくねんごのせかい

前時代の氷河期に
サンゴ等は滅んだが
今は新たな生態系が
豊かに繁栄している
オーシャンファントム
ocean phantom

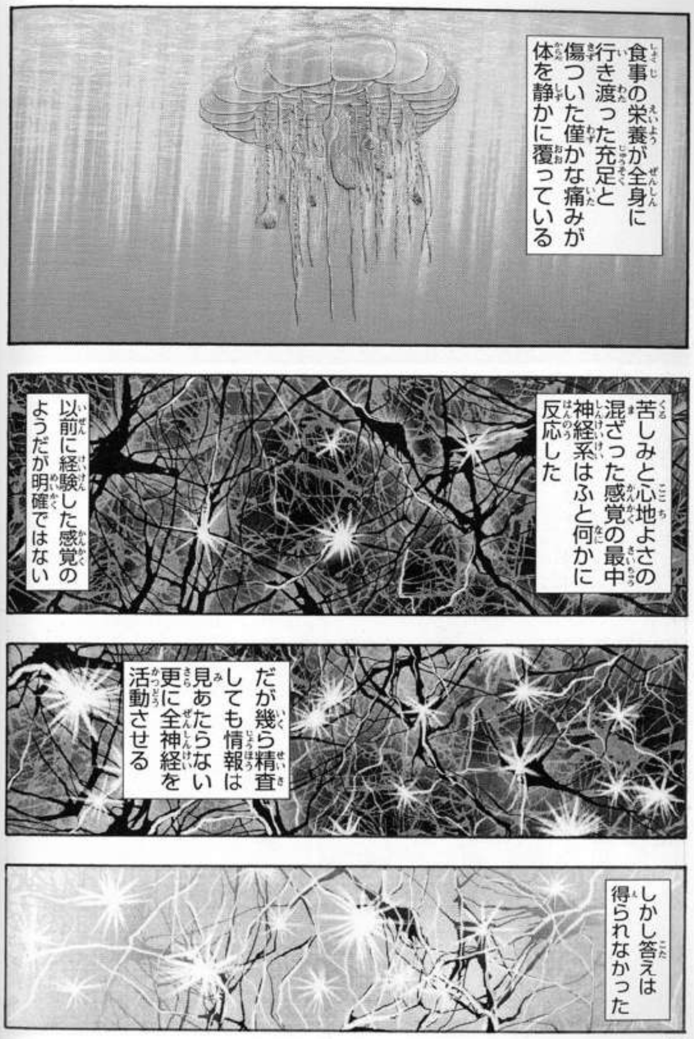

長さ10m 幅4m 現代の
鯨にも匹敵する巨体
何千もの小さなクラゲ達が
集合してできた生命体だ
各機能を担うそれぞれの部位は
複雑な神経系に繋がれ
高度なコミュニケーションで
敏速かつ的確に働く
さながら
海上に浮かぶ
巨大な脳だ

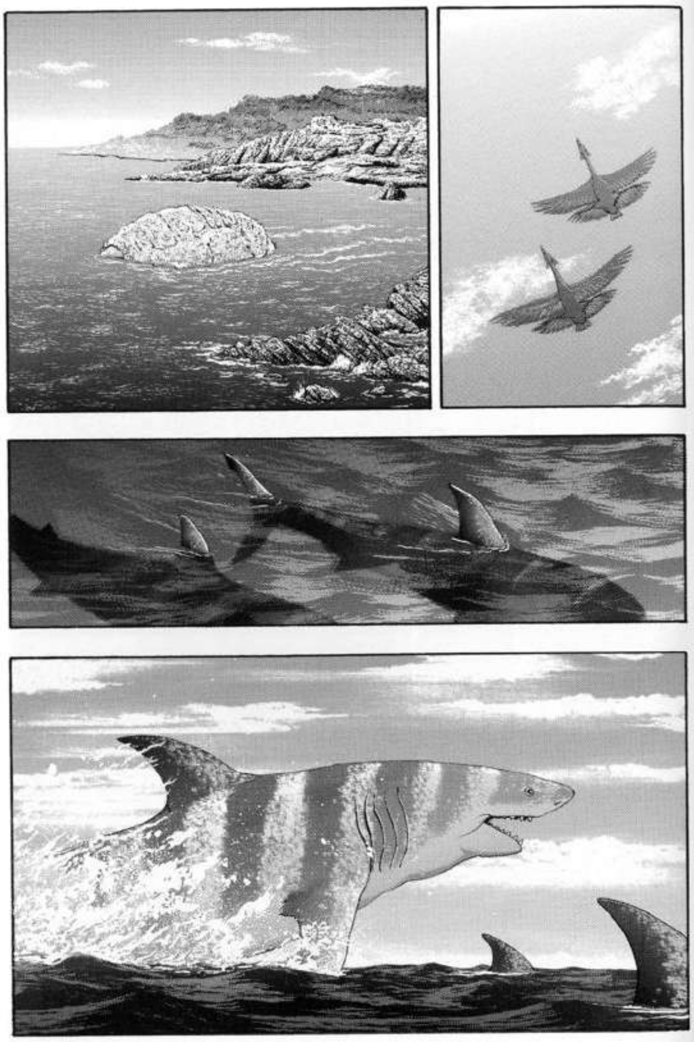

リーフグライダー
reef glider

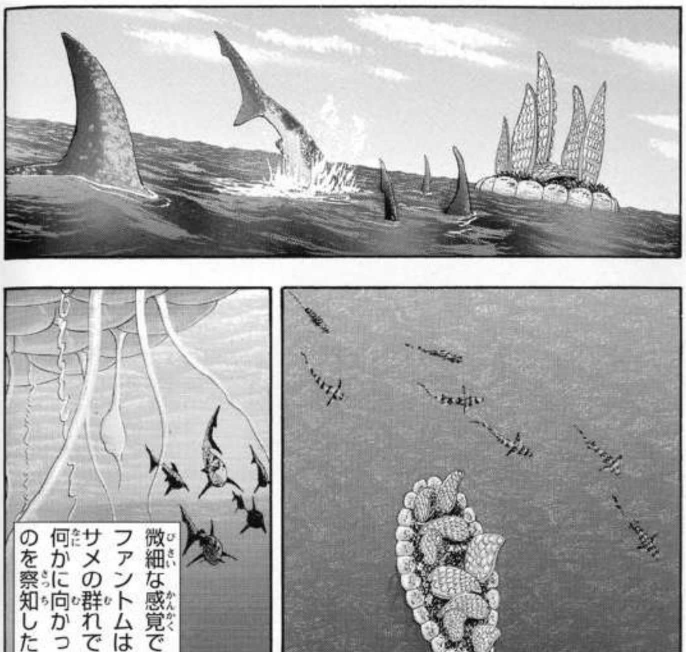
ウミウシの子孫である
も彼らは この時代のリーフに
ももっとも広く繁殖している
生き物のひとつだ
リーフグライダーの子はファントムの恰好の餌だが 触手に免疫をもつ成体は逆に天敵となる
しかし備えはある
神経系は次の指令を下した
スピンドルトルーパー
spindletrooper

共生している
ウミグモである
普段は触手の内部に潜み
宿主の危機には鋭いあごと
かぎづめで防衛を務める
見返りに宿と食糧の
お裾分けを得ている
感覚器のグループが
探った風と太陽方向の
情報を分析し
帆のグループが風を
捉え始めた
ゆっくりと漂い
安息出来る場所へ
移動するのである

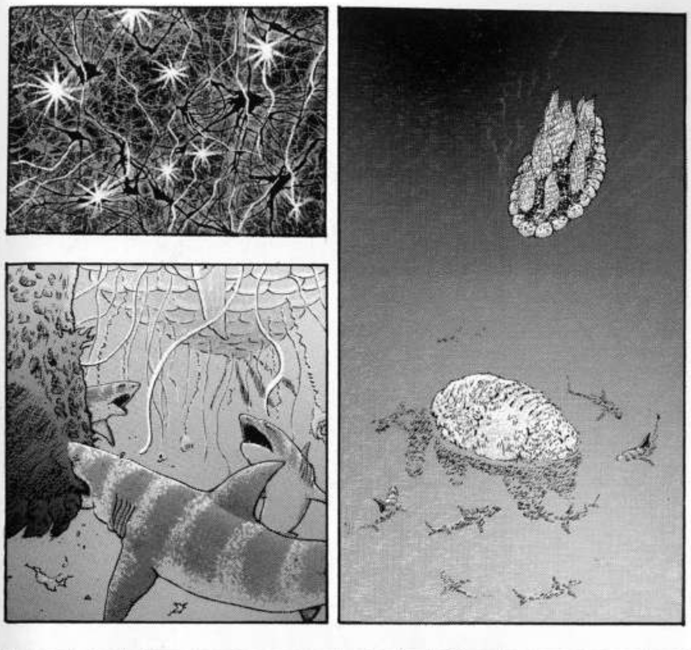
致命的攻撃を
受ける弱点がなく
欠損しても直ぐに
再生するその命は
永遠とも言える
躊躇や後悔もない只々
効率良く生きる存在
ある種その生態は
生命として完全である
感情などは無意味だ
遠くで嵐の気配がするが
此処まで影響はしない
神経系はそう結論し
休息の体勢に入った

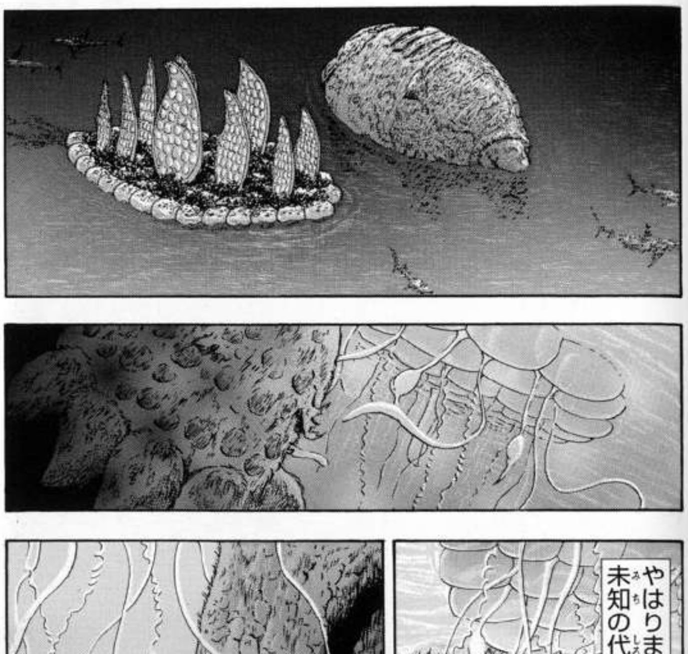

食事の栄養が全身に
行き渡った充足と
傷ついた僅かな痛みが
体を静かに覆っている
苦しみと心地よさの
混ざった感覚の最中
神経系はふと何かに
反応した
以前に経験した感覚の
ようだが明確ではない
だが幾ら精査
しても情報は
見あたらない
更に全神経を
活動させる
しかし答えは
得られなかった



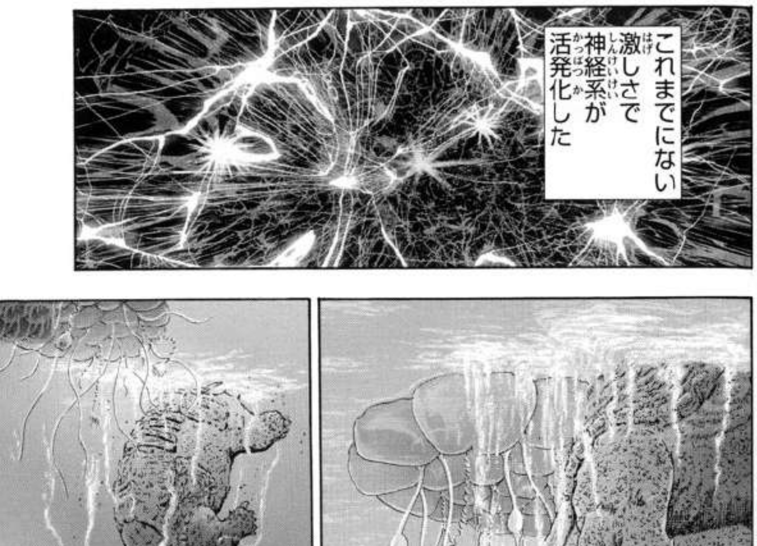

微細な感覚であったが
ファントムは今のが
サメの群れであり
何かに向かっている
のを察知したようだ
群れを追い始めた
というよりその目標で
あろう妙な未知の匂いに
惹かれ移動を開始した

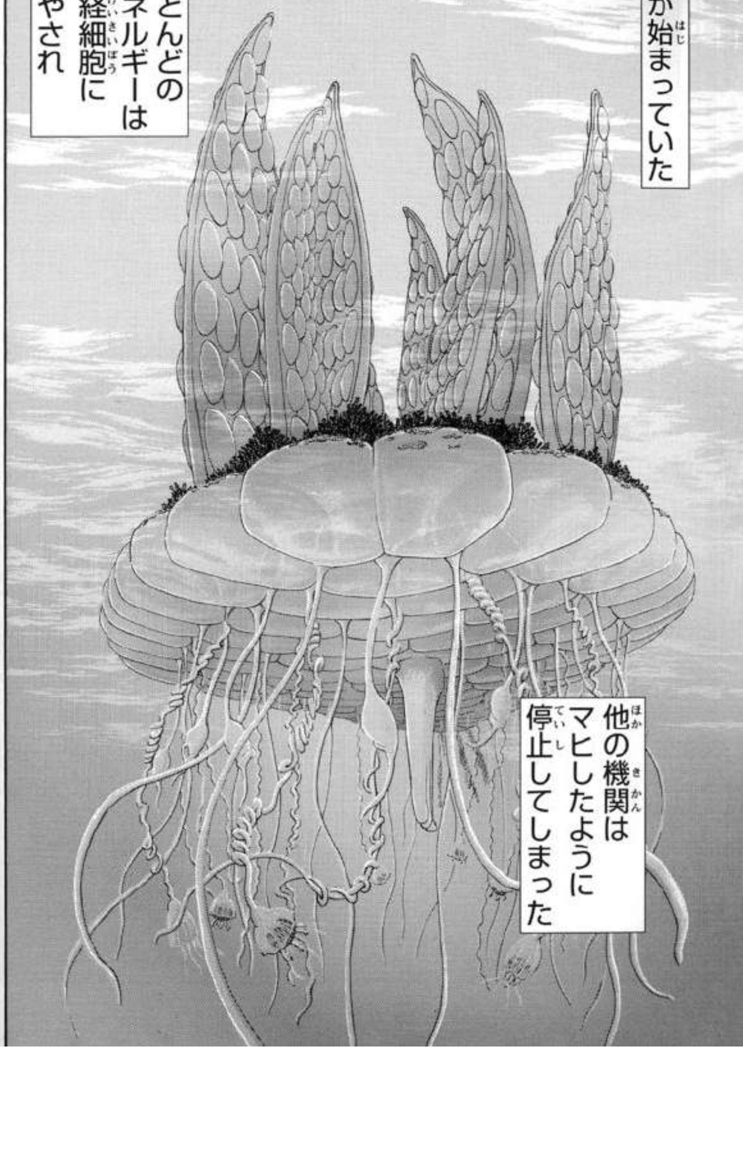
千切られた触手は
再生したが
神経系は激しく
先程の何かを求めていた
通常なら危険回避が生存に
欠かせぬ最優先事項なのだが
目下はその未知の感覚を
なくす事へと移行したようだ


この時代でもサメは強者だが
リーフグライダーのように
ファントムの触手の毒に
対して免疫を持っておらず
敵ではない


やはりまるで
未知の代物であった
口や目を備えた
典型的な生物の形態だ

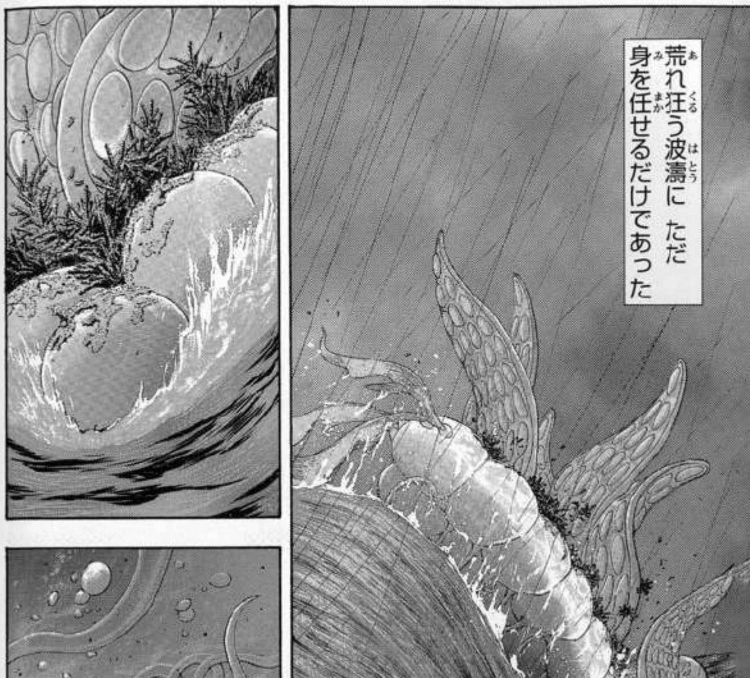
それは
この時代に生まれた
史上最大の陸生動物
トラトンの亡骸であった
もちろんファントムの
理解を超える事実だが
優秀な神経系はなんとか
巨大な生物の死骸で
ある事を把握した


これまでにない
激しさで
神経系が
活発化した


混乱が始まっていた
ほとんどの
エネルギーは
神経細胞に
費やされ
他の機関は
マヒしたように
停止してしまった

あまりに刺激的な出会いが
一気に神経系の処理容量を
上回ってしまったのだ

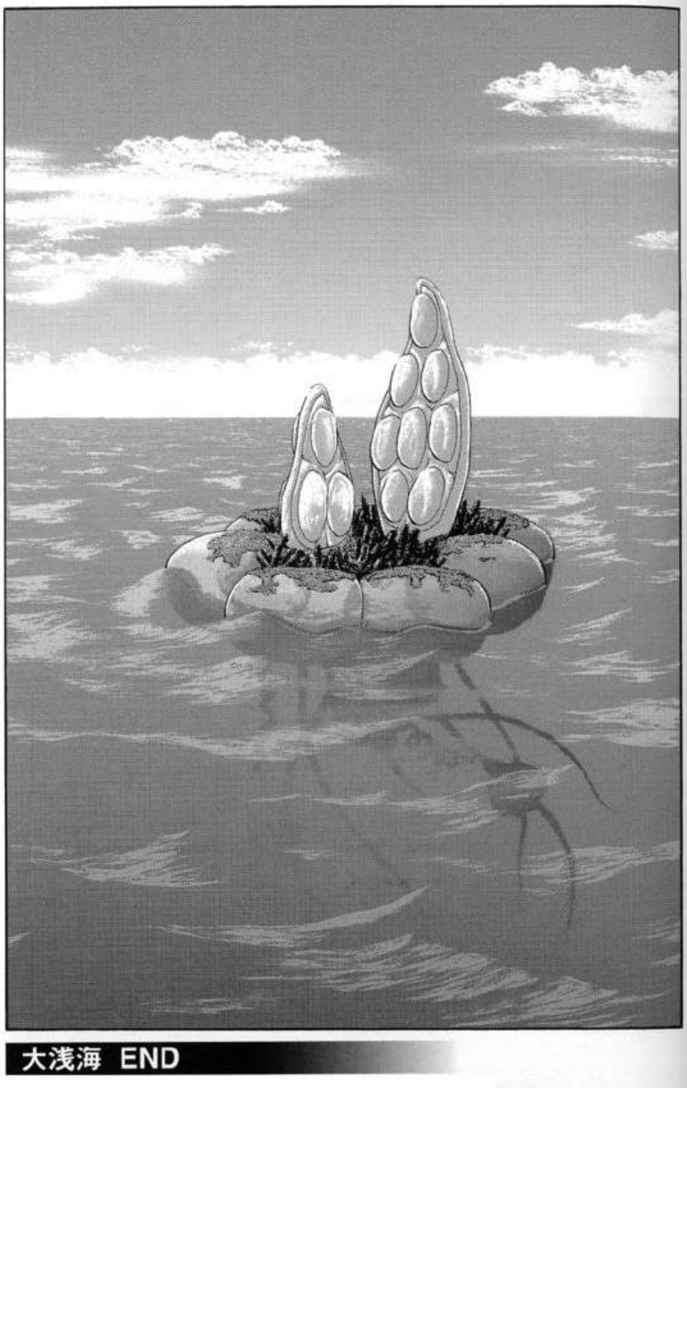
嵐の接近を認識したが
もはや脱出する
判断さえ得られない


荒れ狂う波濤に ただ
身を任せるだけであった

分断され統一を
失っていく
断末魔の刹那
神経系はようやく
その身が何千と言う
生の集合である事に
気づいたようであった

そして彼は幾度となく
こうして自壊し再生して
来たのである
苦しみと心地よさの
混ざった感覚だ
そして幻の様に
意識はかき消えた

もしかすると
その神経系は必要以上に
発達するのを自ら拒んで
いるのだろうか
だとすれば
彼等は本当に
完全なる生命体で
あるのかも知れない



大浅海　END